

★ もうすぐ春ですね！

年度末を迎え、会員の皆様におかれましてはお忙しい時期と存じます。桜の開花もそろそろでしょうか。蕾を見上げると、新年度への期待とともに時の早さを感じると思います。

さて、このニュースレターにて、今年度最後の発行となります。今年度、支部会長の改選、HP開設や会費納入方法の変更など、変化の多い一年ではありましたが、皆様よりご理解ご協力をいただき本当にありがとうございました。来年度以降も、皆様方から多くのご協力を賜り円滑な運営を目指していきます。よろしく願い申し上げます。

★ 目次

1. 支部会費の納入の変更について ★ 重要 ★
2. 2009年度 第2回 資格更新研修会 報告
3. 各ネットワーク研修会 報告
4. 東京支部役員会議事略録
5. 2010年度 第1回東京支部資格更新研修会および総会 【予定】
6. 大学研究者へのお願い
7. 東京支部が関わった特別支援事業についての報告
8. アドレス登録とホームページ活用についてのお願い ★ 重要 ★



1. 支部会費の納入について ★ 重要 ★

過日「日本臨床発達心理士会」(本部)からご案内がありましたように、支部会費の納入につきましては2010年度より本部への一括納入に戻ります。 2009年度の支部会費をまだ納入されていない方は、至急、東京支部へ納入をお願いします。納入先が異なりますので、ご注意ください。詳細はHPをご覧ください。

内容	納入先【郵便振替】	問い合わせ
2010年度分 士会費 8,000円 支部会費 2,000円 前受け金納入済みの為 下記の会員は納入不要 登録No. 1213-1808	《ともに本部へ納入》 口座 00110-3-333068 日本臨床発達心理士会	shikaku@jocdp.jp
2009年度分 士会費 8,000円	《本部へ納入》 口座 00110-3-333068 日本臨床発達心理士会	shikaku@jocdp.jp
支部会費 2,000円 前受け金納入済みのため 下記の会員は納入不要 登録No. 00952-01808	《支部へ納入》 口座 00160-8-565262 日本臨床発達心理士会東京支部 *通信欄にメールアドレスを ご記入ください	jimu@jocdp-tokyo.net

*いずれも通信欄に、①登録番号 ②名前(ふりがな) ③所属支部を記入してください。

2. 2009年度第2回 資格更新研修会 報告

■ 日時：2009年12月13日（日） ■ 会場：筑波大学大塚キャンパス G204 教室

■ 研修会1（午前の部 9：30～12：30） ■ 取得ポイント：1ポイント

■ テーマ： 最近の保育概況と発達支援のポイント

■ 講師：柴崎正行氏（大妻女子大学 教授・有資格者） ■ 参加者数：38名

教育基本法の改正や保育所保育指針の改訂など、最近の保育行政を含めた解説がなされた。子どもの発達支援や保護者支援につながる保育内容のポイントとして、子どもが保護者から大切にされていることや、子ども自身が自己肯定感を持てるようにすること、さらに、子どもたち同士が協同して活動に取り組めるための“コツ”が、具体的な事例を交えながら紹介された。その上で、幼児期における学びの意義として、小学校以降の学習につながるような、身近なものへのかわりを中心とした体験に基づいた学習の重要性が示された。自己評価の導入や保育要録の作成など、保育者の専門性が期待される職務がますます増えてきていることを踏まえ、地域の専門家とどのように協働していくかを考えていくことが大切であることが指摘された。保育現場で発達支援を行う者は、最近の保育状況を把握することが求められることを考えると、今回の講義は、今後の臨床活動を行う上で示唆に富むものであった。（文責：坪井）

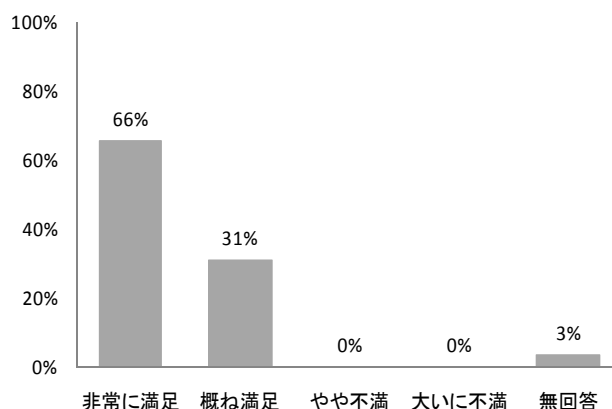
■ 研修会2（午後の部 13：30～16：30） ■ 取得ポイント：1ポイント

■ テーマ： 視覚障害、視知覚障害のある子どもの評価と指導

■ 講師：佐島 毅氏（筑波大学障害科学系 教授・有資格者） ■ 参加者数：34名

視覚障害・視知覚障害のある子どもの理解について「見えることを前提に子どもの臨床像を捉えていないか？」という投げかけから始まり、基礎疾患の多様性、見え難さの多様性について学んだ後、眼球疾患・視覚路の疾患・大脳後頭葉視覚野の疾患・大脳頭頂葉連合野の疾患などそれぞれの疾患と、見え方の特性を丁寧に説明された。それぞれの疾患で生活や学習における困難さは違っていること、しかし共通して「経験の体制化」の困難さや「たどる」「自己の行為のフィードバック」の重要性、それらをどう獲得していくか、そして最後に「学びの本質」についての深い話で締めくくられた。（文責：高橋）

■ 参加者の感想



参加者の研修会に対する満足度 (%)
(参加者数 38 名)

研修会参加者の所属支部の内訳は、
東京支部会員のみでした。
(他支部会員参加なし)

《参加者の声》

- 具体的な実践のお話やビデオ資料に基づいた講義でとてもわかりやすかった。
- 教育基本法、学校教育法の改正について、理解が深まった。
- 日々の臨床実践で「より細かな視点を！」と改めて思った。
- 「明日からの仕事に活かしたい」と意欲が湧いてきた。

■ 今後研修会に取り上げてほしいテーマ

- 保育現場における具体的な支援の在り方（実践を通して）
- 成人の発達障害のある方への支援（就労やメンタルヘルス）
- 発達障害児の思春期における問題行動への対応
- ADHD、LD、反抗挑戦性障害の子供への具体的対応の在り方
- 発達障害と精神疾患（統合失調症など）との関連
- 軽度の発達障害児への支援、幼稚園・保育園と療育機関・保健センター等の連携
- インリアル・アプローチ 感覚統合 RDI

発達支援の知識や方法について具体的な事例を通じた学びができる研修会を要望する声が多くみられました。また、子どもへの直接的な支援方法に加えて、子どもたちを取り巻く環境（関係機関など）との連携の仕方についても関心が高まっているようです。

（文責：中内）

3. 2009年度 ネットワーク研修会 報告

《特別支援教育ネットワーク》

◆ 特別支援教育ネットワーク研修会・第1回

- 日 時：2009年8月10日（月） 14：00～17：00 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会 場：筑波大学大塚キャンパス G203 教室 ■ 参加費：無料
- テーマ：小中学校の校内委員会への支援について—学校コンサルテーションの視点から—
- 講 師：大石幸二氏（立教大学 教授・有資格者） ■ 参加者数：15名

大石幸二先生より小中学校の校内委員会への支援についてご講演いただいた。講演では、学校コンサルテーションの観点から校内委員会への支援など特別支援教育における取り組みのヒントについての示唆が得られた。講義を受けて、グループ討議（1グループ5～6人）を行った。特別支援教育コーディネーターや巡回相談等として学校にかかわる中で、「授業づくり、学級経営にどのように取り組むか、校内支援、地域支援にどのように取り組むかなど、日々の取り組みについて参加者同士の情報交換を行った。

◆ 特別支援教育ネットワーク研修会・第2回

- 日 時：2010年1月24日（日） 14：00～17：00 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会 場：東京都立王子第二特別支援学校 ■ 参加費：無料
- テーマ1：巡回相談における校内委員会支援 [実践報告]
話題提供者：森田 正氏（杉並区立中瀬中学校・有資格者）
- テーマ2：校内委員会（コーディネーター）への支援の在り方 [グループ討議]
話題提供者：菅原真弓（立川市立第七小学校・有資格者）

森田先生からは、特別支援学校のコーディネーターとして巡回相談を行う中での校内委員会への支援について具体的に報告いただいた。菅原先生からは、校内委員会（コーディネーター）への支援のあり方のシート（案）について話題提供いただいた。話題提供をふまえ、グループ討議では、「支援員等の加配のメリットデメリット」「授業づくり学級づくりの視点をもった助言」「複数コーディネーター体制の必要性」「巡回相談での助言をその後の実践に活かす工夫」「校内委員会の機能化」「巡回相談と校内委員会の連携」「授業支援会議システムの事例」「保育園巡回相談の課題」などについて情報交換を行った。

実践報告＋グループ討議というスタイルは参加者から好評で、今後も継続したい。有意義な研修会であるため、今後より多くの会員の皆さんが参加しやすい形式を検討する。

《子育て・発達支援ネットワーク》

◆ 子育て・発達支援ネットワーク研修会・第1回

- 日 時：2009年7月19日（日） 13：00～16：00 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会 場：うめだ・あけぼの学園（足立区） ■ 参加費：無料 ■ 参加者数：43名
- テーマ：発達支援機関の「今・これから」
- 話題提供：発達支援センターうめだ・あけぼの学園、のぞみ発達クリニック、
江東区こども発達センターCOCO

特色ある発達支援を展開している3つの施設の臨床発達心理士より、施設理念・事業概要・子どもたちの様子・職員構成・今後の方向性や課題について発表していただいた。3施設ともに、地域や他機関との“連携”を工夫・模索している現状が語られた。

情報交換会では、自己紹介の後、3グループに分かれて発表を踏まえた意見交換や情報交換が活発に行われた。日頃、子どもたちが過ごしている教室で10名が小さい机を囲んで小さい椅子に座り、子どもたちの息遣いが聞こえてくるような臨場感の中で充実した話し合いができた。本音で語るための良い演出効果であったと感じた。

◆ 子育て・発達支援ネットワーク研修会・第2回

- 日 時：2009年11月15日（日） 13：00～16：00 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会 場：江東区こども発達扇橋センターCOCO ■ 参加費：無料
- テーマ：保育・幼稚園での発達支援 ■ 参加者数：20名程度
- 話題提供：橋場 隆氏

足立区の発達障がい児支援モデル事業について、橋場隆先生から話題提案していただいた後、2グループに分かれてディスカッションを行った。参加者からは、保育士や幼稚園教諭との連携、保護者支援など、日々の巡回相談や他機関との連携において苦慮している実情が多く出された。このような実践に即した話し合いを行う中で、それぞれの地域状況を知る機会になった。

橋場先生からは、足立区のモデル事業について以下の点について話題提供をいただいた。

- (1) 発達障がい児への対応手引き書の作成
「気になる子のQ&A」（足立区ホームページでご覧いただけます）
- (2) 専門職派遣・専門研修
- (3) 発達支援児保育モデル園事業

◆ 子育て・発達支援ネットワーク研修会・第3回

- 日 時：2010年2月13日（土） 13：00～16：00 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会 場：足立区障がい福祉センター「あしすと」 ■ 参加費：無料 ■ 参加者数：20名
- テーマ：乳幼児期のお子さんをもつ保護者への支援
- 話題提供者：笠原和子氏・東 智子氏・吉田由紀子氏

各先生方より、保健センター、保育園・幼稚園、発達支援機関における保護者支援の事例を話題提供していただき、最後にフロア全体でのディスカッションを行った。ディスカッションでは、発表内容の質問のほかに、参加者の保護者支援の実態から就学支援、生活支援、機関連携など話題が多岐に渡った。参加者より、「保育園巡回相談における問題整理」、「内部および他機関における連携」について重要なポイントが得られたとともに、それぞれの現場において苦慮している状況を知ることができ好感が持てたという声が挙げられた。今年度3回の研修会を通して、顔見知りが増えネットワークのつながりへの布石を感じる会となった。

《発達臨床研究ネットワーク》

◆ 発達臨床研究ネットワーク研修会・第1回

- 日時：2009年9月7日（月） 13：00～16：20 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会場：首都大学東京南大沢キャンパス ■ 参加費：無料 ■ 参加者数：14名
- ラウンドテーブル：困難からの回復力を再考し、研究可能性を考えてみる

話題提供者：小野寺敦子氏・藤野 博氏・須田 治氏

■ ショート・ラウンドテーブル：発達臨床事例への質的データ解析による接近法

目白大学の小野寺敦子先生からは、困難からの回復力についての2つの流れ、「レジリエンス」と「エゴレジリエンス」の概念定義、研究の流れについての説明があり、後半は「エゴレジリエンス」が母親の養育態度に与える影響や青年の無気力感に与える影響などについての最新の研究結果が示された。東京学芸大学の藤野博先生からは発達障害児におけるレジリエンスについて、支援サークル等のソーシャルサポートの重要性についての示唆に富むお話をいただいた。首都大学東京の須田治先生からは「傷つきやすさからの推論～アスペルガー症候群の病理～」とのテーマで、レジリエンスをパーソナリティ尺度では捉えられないやりとりを含めた情動調整のプロセスの側面から解明していく方法について、また、心身的な問題も含めて情動調整の問題を取り上げていくことの重要性についての問題提起がなされた。事例や質的データによる研究法の可能性などについても、議論がふかかった。

◆ 発達臨床研究ネットワーク研修会・第2回

- 日時：2009年12月20日（土） 13：00～16：20 ■ 取得ポイント：1ポイント
- 会場：首都大学東京南大沢キャンパス ■ 参加費：1000円 ■ 参加者数：18名
- テーマ：観察・事例・ナラティブによる研究の探求1
- 講師：根ヶ山光一氏「発達初期のタッチング研究と発達臨床」

田中あかり氏「幼稚園教師と子どもの間の情動調整機能の変化―現場を捉える」

早稲田大学の根ヶ山光一先生からは、発達初期のタッチングやくすぐり、抱きなどの発達研究の知見から、単なるスキンシップ論ではなく、身体を通じたアンビバレントな感情発達やコミュニケーションの細やかなプロセスの発達臨床的意義についてのお話があった。自分の身体を通して他者とかわる、自―他の二項関係と自―物―他の三項関係の間に「二、五項関係」という中間様式があるのではないかと興味深いお話があった。研究方法や解析ソフトについてのお話も大変貴重であった。首都大学東京大学院の田中あかり氏からは、幼稚園教諭と子どもの間の情動調整機能の変化について、現場に密着したフィールドワークからエピソードを通じた事例研究の紹介があった。関係調整のプロセスを明らかにしていくためには、行動の量的な側面だけでなく、質的な変化をおっていくことが重要であること、その一方で方法論や分析方法、解釈の難しさなどについて今後につながる議論が深まった。

（文責：東）



4. 役員会議事略録

■日 時：2009年12月13日(日)

■場 所：筑波大学大塚キャンパス

■出席者：竹谷、東、河島、黒田、加藤、高橋、田中、坪井、菊地、仲村、中内、小野里

1. 報告・確認事項

1. 2009年度研修会の出席人数、内容等について報告。

ネットワーク研修会が増え、他研修と重なることがあった。

ネットワークの運営中心になる人が必要である。

掲示板とメーリングリストの使い分けが必要である。

ネットワークは情報交換の場であるという共通認識が必要。

2. 2009年度の会計報告(概算)の報告

納入は80%越えたが、未納者は103名おり、20万円が未収。

予算修正・対策を行った。

来年度の支部会費は全国会費と一括徴収に戻すことになった(報告)。

支部研修会では催促をつづける。

3. 文京区巡回相談、都立永福学園ならびに都立高等学校巡回相談に関する報告

4. 2010年度第1回資格更新研修会について、日程、内容、講師依頼について協議

5. 2010年度 第1回東京支部資格取得研修会および総会 【予定】

2010年度 第1回の東京支部主催資格更新研修会および総会は、下記の日時を予定しております。場所、内容は、決定しだいHPに掲載し、来年度のニューズレター第1号にてご案内いたします。



日 時：2010(平成22)年 5月30日(日) [予定]

場 所・内容：未定

午前の部 (9:30~11:30)

東京支部総会 (11:30~12:00)

午後の部 (13:00~16:00)

※上記の日時は変更する場合がありますので、来年度のニューズレターにて必ずご確認ください。

※今後の研修内容など、ご希望などありましたら、ぜひ事務局までご連絡下さい。

6. 大学等研究者へのお願い

大学研究者の皆様に研究者の立場から、東京支部の運営(幹事会、発達臨床研究NW研修会等)にお力添えをいただきたいと思っております。東京支部の活動をより一層充実させるために、皆様のお力が必要です。ご関心、ご協力いただける方がいらっしゃいましたら、東京支部事務局(jimu@jocdp-tokyo.net)までご連絡ください。よろしくお願いたします。

首都大学東京 須田 治

7. 東京支部が関わった特別支援事業についての報告（2009 年度）

- 文部科学省モデル事業「高等学校における発達障害支援モデル事業」
都立足立東高等学校に巡回相談担当として臨床発達心理士2名を配置した他、臨床発達心理士による保護者向け研修、及び支部として事業の進め方についてのコンサルテーション（10回程度）を実施した。
- 都事業・都立高等学校巡回相談の巡回相談
都立高等学校（チャレンジスクール6校）に臨床発達心理士9名を配置した。
- 都事業・軽度知的障害対象の特別支援学校への臨床発達心理士の派遣
都立永福学園（360時間）、都立青峰学園（80時間）に臨床発達心理士4名を配置した。永福学園とは、12月に学校と心理士会とのこれまでの活動の振り返りと今後に向けての課題について話し合いを設けた。
- 文京区事業：文京区公立小中学校巡回相談
区立小中学校30校の巡回相談に臨床発達心理士17名を配置した。各小中学校に対して、年間4回、1回につき3時間程度の巡回相談を行った。また、特別支援教育コーディネーター連絡会議に巡回相談を担当した臨床発達心理士が出席した。
- 特別支援教育に関わる臨床発達心理士の養成研修
臨床発達心理士の有資格者かつ特別支援教育領域の経験者を対象に、東京支部が携わっている特別支援教育事業に従事することができる専門性の高い臨床発達心理士を養成するために、年間3回6講座（1講座3時間）の研修会を実施した。
- 文京区巡回相談員レベルアップ研修
文京区巡回相談に関わっている臨床発達心理士を対象に、教育委員会を交えた情報交換、巡回相談に関わる課題解決に向けての意見交換、講師を招いての研修会等を年3回実施した。

（文責：竹谷）

8. メールアドレス登録とホームページ活用について ★ 重要 ★

〈事務局より…再びお願いです。〉

これまで郵送していましたが「各種研修会の案内」ならびに「東京支部ニューズレター」は、HP上からメールアドレスをご登録いただきました場合は「メール配信」にてお知らせし、「ホームページからのダウンロード」を原則にさせていただきようをお願いしたいと思います。

東京支部会員数は、500名を超えており、事務量、事務費用の負担を減らすためにも会員の皆様からご理解・ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

なお、住所の変更や所属の異動等についてのご連絡は、本部へご連絡下さい。

- 東京支部HPよりメールアドレスの登録をお願いします。<http://www.jocdp-tokyo.net>
- ご連絡：東京支部事務局・東 敦子（のぞみ発達クリニック）jimu@jocdp-tokyo.net



東京支部ニューズレター2009年度第3号(通巻10号) 2010.3発行

編集: 中内麻美・田島洋介(NL担当)